



三春中学校だより

第 66 号

発行日 平成31年 3月11日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【2週間後の卒業式にむけて！ ～予行に心を込めて取り組みました。～】

2週間前の2月28日(木)、体育館において、平成30年度の卒業式予行を行いました。3学年団の先生方の後に続く3年生。吹奏楽部の生演奏と1・2年生の温かなまなざしに迎えられ静々と入場してまいりました。「ただいまより平成30年度福島県…」と始まった教頭先生の開式の言葉に、三春中学校はこれまで県内を代表する人材を育ててきた、そして、これからも育てていかなければならないという強い意志が伝わってきました。

前号でお伝えしたとおり、校長よりは、予行式辞として、『自己分析力』、『課題解決力』、『集団生活のルール』、『多様な考えを認めつつ、本当に大切なものを見極める力』、『ここに、今、命あること』、『一所懸命』、『一隅を照らす』などのお話を伝えました。『送辞』と『答辞』についても、動き等は確認しましたが、中身は本番の卒業式までお預けでした。在校生が卒業生に贈る言葉、それに応え、卒業生が後輩に贈る言葉、双方の心の交流が卒業式場で繰り広げられることと思います。

卒業式ガイダンスを予定よりだいぶ前に実施し、教務の新田先生が卒業式のねらいや意義について説明してから、子どもたちの卒業式にむけた姿勢が変わりました。自分たちの現状を分析し、卒業式にむけ本当に大切なものは何かを考え、練習に一所懸命に取り組み、仲間と『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』卒業式の練習に取り組み、自ら為すべきことを与えられたそれぞれの場で一隅を照らし続けた結果がこの日の予行となりました。すばらしい子どもたちであり、すばらしい先生方だなあと心より思いました。



【同窓会に入会が許されました！ ～今度は三春中学校を外から温かく見守ってください。～】

3月1日(金)、三春中学校同窓会連合会の幕田勝壽会長様をはじめとした役員のみなさまをお迎えし、同窓会入会式が実施されました。

幕田会長様よりのお話の後、学年委員の任命があり、4名の生徒が同窓会の学年委員として任命書をいただきました。誓いの言葉の3年生代表女子生徒の発表は、第3学年の代表にふさわしく、その内容、論の展開、場に応じた声、そして、強い決意がとても伝わってくるすばらしい誓いのことばでした。

新たに三春中学校同窓会連合会の会員となった3年生のみなさん、いつまでも、私たち三春中学校のことを温かい目で見守り続けてくださいね。



【がんばっています！ ～自ら選択した、大好きな部活動です。～】

壁の前にうづくまっている女子生徒。放課後の校舎内を見回っていると、そんな姿が目飛び込んできました。体の具合でも悪いのかなあと近づいてみると、丸椅子の上に載せたラジカセの音楽を聴きながら歌の練習をしているところでした。準備室の外側から音楽室をのぞくと、2名の女子生徒が木琴・鉄琴をポコポコ叩いて練習していました。3階をさらに巡ると、音楽の先生とピアノを囲んで2名の女子生徒が歌の練習に精を出していました。

入学当初、仮入部期間の中で入部する部活動を検討し、自ら選んだ部活動です。自らの選択に自信

と誇りをもち、『共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに』練習に取り組む生徒たち。がんばっています。褒めてあげてください。



【PTA補導委員会のみなさん、あいさつ運動、1年間ありがとうございました！】



PTAのみなさんと一緒にスタートした平成30年度のPTA活動も終盤となりました。先日は、教養委員会の広報誌を配付させていただきました。3月初めはあいさつ運動の週となりました。年度当初、子どもたちの間からは、“あいさつをする”よう声高に発せられ、また、あいさつを返してくれないという反省も聞かれました。しかし、いずれの声もこの頃はあまり聞かれなくなってしまいました。早朝よりお集まりいただいた補導委員・役員のみなさん、この日の子どもたちのあいさつに『相手を認め、感謝する心』は感じることはできましたか。『あいさつ』における『本当に大切なもの』とは何なんでしょうか。それをどう子どもたちに伝え、理解してもらえばいいのでしょうか。忙しい中、早朝からお集まりいただいたPTAのみなさんのあいさつ運動からたくさん学べるものがあるはずです。ありがとうございました。

【民報号がやってきました！ ～第2学年で、新聞の特性等について学びました。～】



『読解力』は、日本の子どもたちの長年の課題でした。義務教育の先生方が必死になってその改善に努め、最新の動向ではその努力の成果が上がっているという結果がでました。しかし、本校の全国学力調査等の結果をみると、課題の一つであるのは間違いありません。そんな実態を抱え、本校第2学年においてNIE (Newspaper in Education) 運動の機会を得ました。教育の中に新聞を活用し、“新聞を通して、文字文化に触れ、親子の会話を促進する”などの効果があります。今回の取組は、国語科我妻先生の発案で、3月18日(月)からの修学旅行の学習を振り返り、まとめるときの一助にしようというねらいもありました。

修学旅行での感動の体験を他の人に紹介するには、何を見出しにして読む人の心を引きつけるか、どうしたら相手にわかりやすく自分たちの感動を伝えることができるか、それはまさに、表現する上で大切な相手意識、要点を見極める力、体験をコンパクトにまとめる要約力、感動の中心とそれに付随する部分を見極める力など、まさに、『読解力』に関わる学習となっています。さまざまな学びの機会を活用し、子どもたちの学力向上に取り組む先生方でした。



【校舎点描！～寒さが少しずつ和らぎ、心浮き立つ春が近づいてきています。～】

